



横浜市立富岡小学校

学校だより6月号



当たり前ではない毎日

～1年生のつぶやきから気づかされたこと～

副校長 岩井 孝文

「あ、副校長先生だ！」 「あ、本当だ。副校長先生だ！」

最近、職員室前を通る1年生が、そんな声を交わしているのが聞こえてきます。職員室に副校長がいることなど当たり前前の光景なのですが、その素直なつぶやきに心が温かくなります。

「給食ってあったかくておいしいね！」 「校庭でたくさん走ったよ！」

きっと1年生にとっては、目に映る全てが新鮮できらきらと輝いて見え、当たり前と感じることはないのだろうと思います。とても素敵なことだと思いました。

本校では現在、教育ボランティアとして80名以上もの地域の方が登録してくださり、エプロン隊、花壇隊、家庭科・水泳・昔遊びボランティア、読み聞かせボランティアなど、年間を通して様々な場面で支えてくださっています。

4月には、入学したばかりの1年生の教室に「エプロン隊」の皆様が入ってくださり、子どもたちが安心して学校生活をスタートできるよう温かく支えてくださいました。



エプロンをリニューアルしました！

私が以前1年生を担当していた学校には、このようなボランティアの方の支援はありませんでした。初めての給食の時間、私の声かけも十分でなく、子どもたちも私自身も大混乱で途方に暮れていた時、専科の先生が手伝いに来てくださいました。その先生が、まるで救世主のように見えたのを今でも覚えています。1年生のこの時期に、一人でも多くの方が子どもたちのそばにいてくださることが、どれほど心強いことか、身をもって感じています。

また、「花壇隊」の皆様が世話をしてくださっている畑では、昨年度末に植えたジャガイモがすくすくと育ち、給食室前の花は入学を彩ってくれていました。休日にも足を運び、水やりなどのお世話をしてくださっています。

他にも、地域の方が毎日登下校する児童の安全を見守ってくださっています。今年度が始まってまだ2か月足らずですが、本当にたくさんの方に支えていただいた2か月でした。

1年生の「当たり前前には思わない姿」から、このようなボランティアの方、地域の方々に支えられている事も当たり前前ではない、ということに改めて気づかされました。子どもたちのそばで見守り、手を差し伸べてくださる皆様の温かさがあるからこそ、今の子ども達の学校生活が成り立っているのだと深く感じています。私たち教職員一人一人が、そのお気持ちを大切に受け止め、決して当たり前と思うことなく、感謝の気持ちを行動でお返ししていきたいと思います。そして、地域の皆様とともに、子どもたち一人一人の成長を丁寧に支えてまいります。

もうすぐ開催される運動会も、当たり前前に開催できるものではなく、子どもたちの頑張りの陰に、たくさんの方の支えがあってこそ実現できる行事です。当日は、子どもたちが力いっぱい走り、仲間と声を掛け合い、成長した姿を見せてくれることと思います。保護者、地域の皆様にも、温かく見守っていただければ幸いです。私も全力で応援したいと思います。



『富小ダイアリー』は、富岡小ホームページから。左のQRコードを読み取ると、富小HPへ移動します。